

熊本の半導体関連産業の現状（2025）

主任研究員 田上 一平

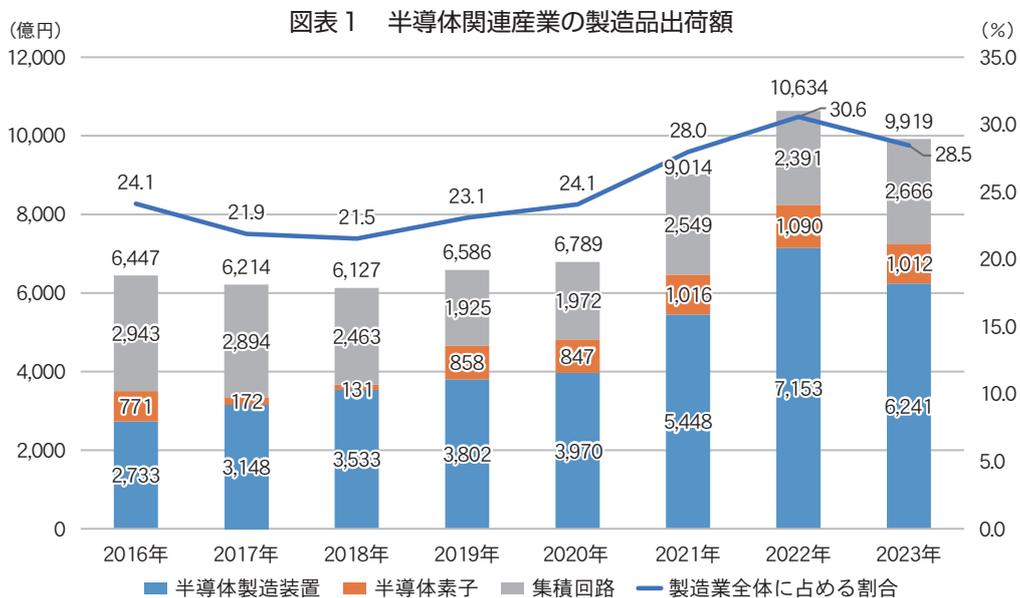
はじめに

熊本県ではTSMCが菊陽町への進出を表明した2021年11月以降、半導体関連産業の集積が一段と進んでいる。一方、AI向け以外の半導体市況の先行き不透明感などを背景に、最近では半導体関連企業が設備投資計画を変更したり先延ばししたりする動きも出ている。本稿では直近のデータを用いて熊本県の半導体関連産業の現状を概観するとともに、半導体関連企業の足元の投資動向について整理する。

1 製造品出荷額、従業者数の動向

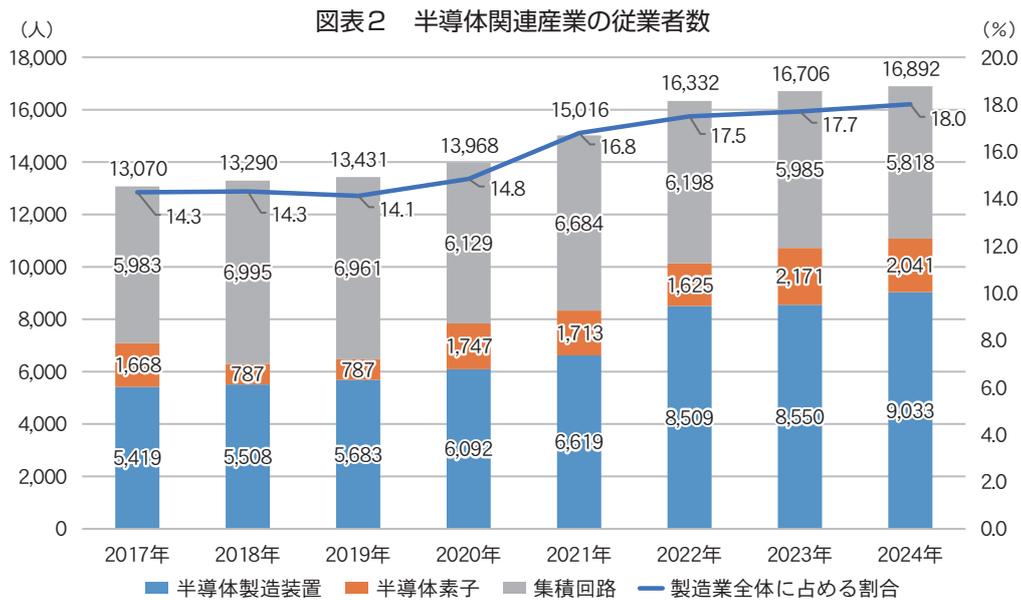
熊本県の半導体関連産業（半導体製造装置製造業、集積回路製造業、半導体素子製造業）の製造品出荷額（2023年）は9,919億円（図表1）、従業者数（2024年6月時点）は1万6,892人（図表2）。製造品出荷額は2020年比で46.1%、従業者数は2021年6月比で12.5%増えている。

現在は、これらの数字に2024年12月に量産を開始したTSMC熊本第1工場からの出荷額や、熊本工場を運営するJASMの従業員（2025年4月時点で約2,400人）などが加わることになるため、一段と増加していると推測される。



内訳をみると、製造品出荷額、従業者数ともに半導体製造装置製造業の伸びが大きい。半導体製造装置製造業は事業所数（2024年6月時点）も77所と集積回路製造業の9所、半導体素子製造業の4所と比べ多く、地場企業を含めた裾野が広がっている。

製造業全体に半導体関連産業が占める割合も増加傾向にある。製造品出荷額は2023年時点で28.5%、従業者数は2024年6月時点で18.0%を占める。事業所数は同時点で製造業全体の4.0%となっている。



資料：経済構造実態調査、工業統計調査などから作成

全国的にみても、製造品出荷額（2023年）は半導体製造装置が全国1位、集積回路は山形、京都、大分に次ぐ4位となっている（キオクシアが立地する三重と岩手、マイクロンが立地する広島は数値を秘匿）。従業者数（2024年6月）も半導体製造装置が1位、集積回路は三重に次ぐ2位となっている。半導体製造装置、集積回路ともに製造品出荷額、従業者数が多いことが熊本県の特徴と言える。

2 企業の進出状況

(1) 立地協定件数

熊本県と半導体関連企業の立地協定件数は、TSMCが進出を表明した2021年11月から2025年12月末までで70件に上る（図表3）。ただ、足元では一服感も出ており、2025年度は12月末までで6件となっている。半導体市況の先行き不透明感に加え、当初は2024年末とされていたTSMC熊本第2工場の着工時期が2025年10月にずれ込んだことなどで、半導体関連企業の様子見姿勢が強まったためと考えられる。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより

アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)